

画像符号化・映像メディア処理レター特集の発行にあたって

画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

委員長 齊藤 隆弘



本特集の一主題である画像符号化研究は、1950年代前期のBell研究所の研究を契機とし、その後紆余曲折はあったものの、1980年代中後期に設立された国際標準化組織JPEGとMPEGの活動を通して国際標準方式へと結実した。現在では、画像符号化にかかわる研究は、インターネットの普及、画像エレクトロニクスの高度化、デジタル放送等のアプリケーションの進展に伴い、センサネットワークなどの応用を前提としたシステム研究や、三次元・多視点映像のデジタル伝送のための情報圧縮の研究等、多様化している。また、これに合わせ、映像メディア端末における機能要求が多様化・高度化してきており、各種の映像処理・加工技術、すなわち映像メディア処理技術の重要性も高まっている。

上記の研究の変遷に歩調を合わせ、1986年から、画像符号化の国内の専門家が着想段階のアイデアも含めた研究発表と意見交換を泊り込みで行う場として、本会画像工学研究会主催の画像符号化シンポジウム(PCSJ)が今日に至るまで継続して毎年開催され、特にMPEG等の国際標準化のための研究活動を盛り上げる場として重要な貢献をなしてきた。また、1996年からは、映像処理へと対象分野を広げるべく映像メディア

処理シンポジウム(IMPS)がPCSJと併催され、今年に至っている。PCSJとIMPSでは、最新のアイデアや研究成果が発表され、熱い討議がなされてきたが、これまで、これらの情報が会員諸兄に必ずしも迅速かつ正確に伝わっていたわけではなかった。そこで、今回、PCSJ2006/IMPS2006で発表された研究をその討議を踏まえて更に発展させたもの、並びに画像符号化・映像メディア処理に関連するその他の研究を主題とした特集を企画した次第である。特に、速報性を重視し、レター特集とした。50件の投稿があり(うちPCSJ2006/IMPS2006で発表されたもの34件)、そのうち28件が最終的に採録となった。

最後に、貴重な研究成果を投稿して頂いた方々、本編集委員会メンバー、査読委員、そして今回の企画をサポートして頂いた和文論文誌D編集委員会の関係各位に深く感謝の意を表します。

さいとう たかひろ
齊藤 隆弘(正員) 昭51東大・工・電気卒。昭56同大大学院博士課程了。工博。同年神奈川大・工・専任講師。平3同教授。現在に至る。画像入力、信号処理、画像処理、画像符号化など画像工学に関する研究に従事。現在、画像符号化シンポジウム運営委員長、映像情報メディア学会編集長。

画像符号化・映像メディア処理レター特集編集委員会

委員長	齊藤 隆弘
幹事	境田 慎一・坂東 幸浩
委員	相澤 清晴・加藤 嘉明・川田 亮一・久保田 彰
	筒口 拳・浜本 隆之・半谷 精一郎・藤井 俊彰
	八島 由幸・米山 暁夫